

Strix 12 : 239-242 (1993)

カワセミの巣穴を利用したスズメ *Passer montanus* の繁殖今西貞夫<sup>1</sup>

## はじめに

スズメ *Passer montanus* は、ユーラシア大陸に広く分布し (Summers-Smith 1988), 日本では一亜種の *P. m. saturatus* が北海道から沖縄まで全国のおもに人家周辺に周年生息している (日本野鳥の会 1978, 1980). 営巣はおもに人家の軒や屋根瓦の隙間などの人工物にするが, 樹洞やワシタカ類の巣の隙間, あるいは木の枝に巣を直接つくるといのように自然物でも時々みられる (清稜 1978, 内田 1986, 唐沢 1989, 都市鳥研究会 1992). わが国では知られていないが, 崖や土手の穴の中での営巣は別亜種の *P. m. montanus* では普通に行なわれている (Harrison 1975, Flint et al. 1984, Summers-Smith 1988). 筆者はスズメが崖の穴を利用して繁殖しているところを発見したので報告する.

報告にあたり, 観察および写真撮影に協力していただいた高津佳史氏, 文献収集に協力していただいた山階鳥類研究所の石本あゆみ, 鶴見みや古, 平岡孝の各氏に感謝申し上げる.

## 観察結果

スズメが崖の穴で繁殖していた場所は, 千葉県印旛郡印旛村大竹 (35°47' N, 140°13' E) の水田地帯にある丘陵部の端を人為的に切り崩してできた砂質の崖である (図1). この場所は集落からは約350m離れている. 発見日は1993年5月19日であった.



図1. スズメが繁殖した崖.

Fig. 1. The human-made cliff where Tree Sparrows are breeding .

1993年12月8日受理

1. 和光大学人文学部人間関係学科浦本研究室 〒195 東京都町田市金井町 2160

発見した時、この崖には合計5個の穴があり、このうち1個の穴にはスズメが食物をくわえて出入りし、穴の奥からはヒナの鳴き声が聞こえてきた。ほかの3個の穴でもスズメが巣材用の枯れ草を運び入れたり、巣材の枯れ草の葉や幹が入っていたり、スズメが出入りしていたりしていたので、4個の穴ではスズメが繁殖または繁殖しようとしていたことがわかった。残りの1個の穴は、カワセミ *Alcedo atthis* の巣穴であった。

スズメの利用していた穴の入口の広さは、縦横がそれぞれ18×7, 18×6.5, 11×6, 10.5×5.5cmで、深さはそれぞれ48, 54, 43, 33cmであった。これらの穴はすべて崖の面に対して少し上向きに掘られていた。穴に入る場合にスズメは、入口の下部に一度とまるため、この部分に爪跡がついていて、穴の入口の周囲に翼で砂を掻いた跡のある穴もあった(図2)。

発見した翌日の夕方にもこれらの巣を観察した。親鳥が育雛を続けていた巣もあったが、それ以後これらの巣を観察しなかったため、スズメが繁殖に成功したかどうかは不明である。

カワセミの巣穴は育雛中のスズメの巣穴の66cm横にあり(図3)、入口の広さは縦13cm、横6cmで、崖の面に対して少し上向きに掘られていた。深さは測定しなかった。

### 考察

仁部(1979)や西村(1979)によると、カワセミの巣穴の深さは50cm前後から100cm程度である。スズメが繁殖のために使用していた穴は、入口の広さや崖の面に対する穴の角度が同じ崖で繁殖していたカワセミの巣穴と似ていたし、穴の深さが30cm以上と深かった。こうした点から、この穴はカワセミが巣穴として掘ったものと思われる。スズメはカワセミの古巣か掘るのを途中で放棄した巣を利用したのかもしれない。また、スズメはほかの種が営巣中にその巣を乗取ることがあるらしいので(浜口1983)、カワセミが造巣中か産卵後に巣穴を乗取った可能性もある。いずれにしても、カワセ

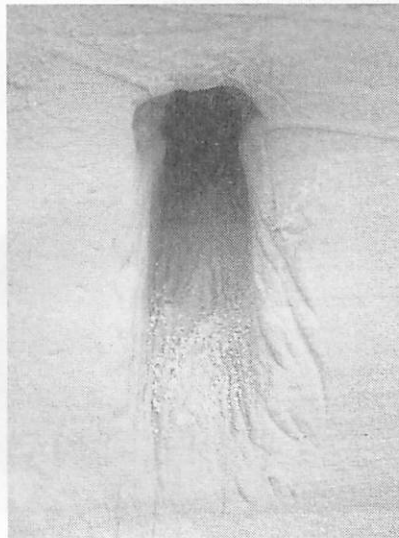


図2. スズメが営巣した穴の入口の状態。

この巣穴は図3の1の穴で、入口下部にはスズメが出入りする時の爪跡が付いていて、周囲には翼の跡も付いていた。

Fig. 2. This hole, used by the sparrows, had claw marks on the alighting place, and wing marks on the walls.

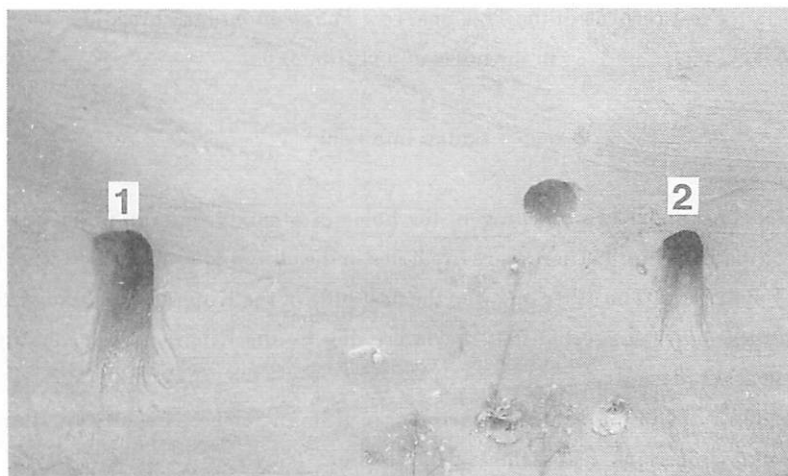


図3. スズメが繁殖のために使用した崖の穴。

1はスズメが使用していた穴で、中にはヒナがいた。2はカワセミの巣穴。1と2の距離はわずか66cmである。1と2の間には浅い窪みがあった。

Fig. 3. The hole used for nesting by the sparrows.

1: The sparrow's nest hole.

2: The Kingfisher's nest hole.

The distance from 1 to 2 was only 66cm. There was a shallow hollow between 1 and 2.

ミの巣穴を利用したスズメの営巣はこれまで報告されていない。

崖の穴におけるスズメの営巣は、新築の人家にはスズメの営巣する隙間がほとんどないことや個体数の増加などに起因したのかもしれない。あるいは人と結びつく前の本来の営巣場所であったのかもしれないが、今後このような場所での営巣が増えることが予想される。

#### 引用文献

- Flint, V. E., Boehme, R.L., Kostin, Y.W., and Kuznetsow, A.A. 1984. A field guide to birds of the USSR. Princeton University Press, New Jersey.
- 浜口哲一. 1983. ツバメ類の巣をめぐる。自然の教室。鳥類保護連盟 出版科学総合研究所, 東京
- Harrison, C. 1975. A field guide to the nests, eggs and nestlings of British and European birds. Collins, London.
- 唐沢孝一. 1989. スズメのお宿は街のなか。中央公論社, 東京。
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 I. 講談社, 東京。
- 仁部富之助. 1979. カワセミの巣とその造営 (1). 野の鳥の生態 II. 大修館書店, 東京。
- 西村昌彦. 1979. カワセミとヤマセミの造巣場所選択について. 山階鳥研報 11: 39-48
- 日本野鳥の会. 1978. 鳥類繁殖地図調査. 日本野鳥の会, 東京。
- 日本野鳥の会. 1980. 動植物分布調査報告書 (鳥類). 日本野鳥の会, 東京。
- Summers-Smith, J.D. 1988. The sparrows. T & AD Poyser, Calton.
- 都市鳥研究会. 1992. スズメ. Urban Birds 9: 44-46.
- 内田博. 1986. 猛禽類の巣近くで繁殖する鳥について. 日鳥学誌 35: 25-32.

First records of the Tree Sparrow *Passer montanus* breeding  
in the holes of a cliff in Japan

Sadao Imanishi<sup>1</sup>

I observed Tree Sparrows breeding in the holes of a sandy, human-made cliff in Inba Village, Chiba Prefecture. There were five holes in the cliff, and four of them were used for nesting by sparrows. The other one was the nest hole of the Kingfisher *Alcedo atthis*. The size of all these holes suggested that they were dug by the Kingfishers, probably old or incomplete nest holes.

1. Laboratory of Uramoto, Department of Human Science, Faculty of Humanities, Wako University, Kanaichou 2160, Machida, Tokyo 195